

Title	ヨーロッパ聖杯騎士伝説をめぐる歴史地理学的考察：「ペルスヴァル」から「パルツィヴァール」、そして「パルジファル」へ：人文地理学会2011年大会発表論題・配布資料
Author(s)	川西, 孝男
Citation	(2011)
Issue Date	2011-11-13
URL	http://hdl.handle.net/2433/156067
Right	This is not the published version. Please cite only the published version. この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認ご利用ください。
Type	Presentation
Textversion	author

202 ヨーロッパ聖杯騎士伝説をめぐる歴史地理学的考察

100001 - 「ペルスヴァル」から「パルツィヴァール」、そして「パルジファル」へー

Study of European Holy Grail's Knight Legend using

Historical Geographic Approach

—from “Perceval” to “Parzival”, and “Parsifal”—

川西孝男（ドイツ・オーバーフランケン歴史協会員，京都大学・院研究生）

KAWANISHI Takao (Historischer Verein für Oberfranken e. V. in Deutschland, Graduate Researcher of Kyoto University)

キーワード： 聖杯騎士伝説，12世紀ルネサンス，十字軍騎士団，バンベルク，バイロイト，アンデクス・メラン，トロワ「ペルスヴァル」，エッセンバッハ「パルツィヴァール」，ヴァーグナー「パルジファル」

Keywords： Legend of Holy Grail's Knight, Renaissance of 12th Century, Crusaders, Bamberg, Bayreuth, House of Andechs&Meran, Perceval by C.Troyes, Parzival by W.Eschenbach, Parsifal by R.Wagner

I はじめに—伝説の探求と歴史地理学—

伝説は一般に史実から離れた、古くから伝わる物語 folklore とされ、神話も伝説の一種と言える。この伝説やその解釈は時代とともに変容することもあり、時に為政者によって恣意的に操られることも多い。ナチス・ドイツの時代には聖杯騎士伝説が政治プロパガンダとして全面的に利用されており、この聖杯騎士が民族の危機的状況を打開するゲルマン民族の救世主、あるいは異民族や異教徒を撃退する不敗の英雄として改竄され、未曾有の惨事を引き起こしたことは未だ記憶に新しい。

この一方で、伝説は人間の知的活動の産物であり、過去の人間が後世の我々に“何かを”遺し、伝えようとしたものとも言える。そこには様々な思想や知恵、さらには叡智が散りばめられ、人類の貴重な遺産でもある。これらのことから、伝説の研究には原書講読やその論考といった人文視点をだけでなく、著者の生涯やその活動拠点、当時の時代背景といった歴史地理学的視点から伝説を検証・探求することが要求される。このアプローチによって、伝説の持つ真の精神に迫り着くことが可能となり、ここにも歴史地理学そして人文地理学における学問的意義が見出せると言えよう。

II 本論の目的と先行研究

ドイツの劇作家リヒャルト・ヴァーグナー(1813-83)は晩年、バイロイトに終の棲家を得、ここに自らのオペラ専用劇場を建造し、ヨーロッパの聖杯騎士伝説を基にした舞台神聖祝祭劇「パルジファルParsifal」(1882)を完成させた。本論は、この「パルジファル」の主題となっている聖杯騎士伝説とバイロイトとの関わりを歴史地理学の視点から論じたものである。

ヨーロッパ中世の文化が開いた「12世紀ルネサンス」の最中に創設されたドイツ東部の辺境地に位置するバイロイトBayreuthは、当時“アルプス以北のローマ”と呼ば

れた近郊の司教座都市バンベルクBambergとの深い関連によって十字軍騎士団の往来した都市であり、ヨーロッパ・キリスト教とアラブ・イスラム教世界の思想や文化が様々なに交差した。そこにはフランスのトロワ.Troyes(1140-12c末)の「ペルスヴァル、または聖杯物語Perceval ou le Conte du Graal」(以下、ペルスヴァル)や、ドイツ(神聖ローマ帝国)のエッセンバッハW.Eschenbach(1160/80-1220頃)の「パルツィヴァールParzival」に描かれた“聖杯騎士の世界”があった。

このヨーロッパ聖杯騎士伝説とバイロイトに関する先行研究は、これら3作品についての文学や宗教学的知見にとどまり、歴史学や地理学、あるいは文化融合の視点から論及したものは見当たらない。また、12世紀の作品である「ペルスヴァル」と「パルツィヴァール」に関してもこれらの視点から十分な研究が行われてきたとは言えず、3作品の聖杯騎士は、その“作品の歴史的意味や精神を曖昧にされたまま”救世の英雄として神聖化されていた。これが故に、Iで述べたように、20世紀前半にはナチスによって民族の救世主としてのパルジファル像が作られ、バイロイトはその聖地とされてドイツ民族による世界支配を正当化するプロパガンダに利用された。

しかしながら、ヴァーグナーが迎り着いた晩年の境地であり、彼の遺作となった“バイロイトの「パルジファル」”には、これら12世紀の作品を十分に踏まえながら21世紀の今日にも通じる、ナチスによるプロパガンダではない価値観が打ち出されていたのである。本論では12世紀の「ペルスヴァル」、これに続く「パルツィヴァール」の両作品成立の歴史的背景に遡り、当時創設されたバイロイトと聖杯騎士伝説との関係、そして当地で伝説が継承される過程を歴史地理学のアプローチから明らかにするとともに、ヴァーグナーの「パルジファル」によって再興されたヨーロッパ聖杯騎士伝説の真の精神に迫りたい。

III 本論の構成と展開

まず、ヴァーグナーによる「パルジファル」の作成経緯とバイロイトでの完成と上演、そして“通常のアペラではない”バイロイトの「パルジファル」について論及し、トロワやエッセンバッハの聖杯騎士伝説に対するヴァーグナーの関心や見解から、「パルジファル」に込められた精神性について考察する。

次に聖杯騎士伝説が初めて著された12世紀に遡り、トロワの「ペルスヴァル」と、これに続くエッセンバッハの「パルツィヴァール」を、当時のヨーロッパそしてイスラムといった文化圏を巻き込んだ十字軍の状況に照らし合わせて比較する。従来、伝説(物語)と歴史(事実)との隔たりによって、聖杯騎士伝説と十字軍騎士団との関係は間接的には多少あるものの直接的にはないとされてきた。これに対し、本論ではこの2つの作品が十字軍の活動と十字軍騎士団に密接に関わっており、この“十字軍の変容”こそが、両者の聖杯騎士伝説の世界観に決定的な違いをもたらしたことを歴史地理学的視点から論及する。

続いて聖杯騎士伝説が完成したときに創設されたバイロイトと、当地を領有支配していたヨーロッパの名門貴族アンデクス・メランAndechs-Meran家(12~13世紀半)に焦点を当て、バイロイトが十字軍騎士団そしてトロワやエッセンバッハの活動拠点と深く関係していたこと、さらにアンデクス・メラン家が聖地エルサレムから“アルプス以北のローマ”たる司教座バンベルクに至る要衝の地を掌握し、聖界にも深く関与して“新たな理念によって”司教座を刷新するとともに、新都市バイロイトをこの理念に基づく東西交易と十字軍騎士団の拠点としたことについて歴史地理学的アプローチを用いて例証する。

これらを踏まえながら、アンデクス・メラン家のバイロイトに遺した聖杯騎士伝説が、18世紀のドイツ領邦絶対主義期にバイロイト辺境伯ゲオルク・ヴィルヘルムによって理想都市ザンクト・ゲオルゲンに再興され、バイロイトが神秘主義の様相を深める過程を追っていく。この辺境伯の生涯とザンクト・ゲオルゲンは「パルジファル」のストーリーをも髣髴させる上、英国の「アーサー王物語」といった聖杯伝説やガーター騎士団の影響を受けるなど、バイロイトに汎ヨーロッパ的な聖杯騎士伝説が深く反映されたことを明らかにする。さらに、ヴァーグナーを支援し、パルジファルのモデルともいわれた19世紀のバイエルン国王ルートヴィヒ2世と、アンデクス・メラン家との関連について歴史地理学的視点から考察し、聖杯騎士伝説が今日に受け継がれていたことに論及する。

最後に、“バイロイトの「パルジファル」”に現れたヨーロッパ聖杯騎士伝説が20世紀の2度の世界大戦を経て、なお宗教的民族的対立の続く今日に何を問いかけているのかについて、聖杯騎士伝説の真の精神に論及しつつ、結語としたい。

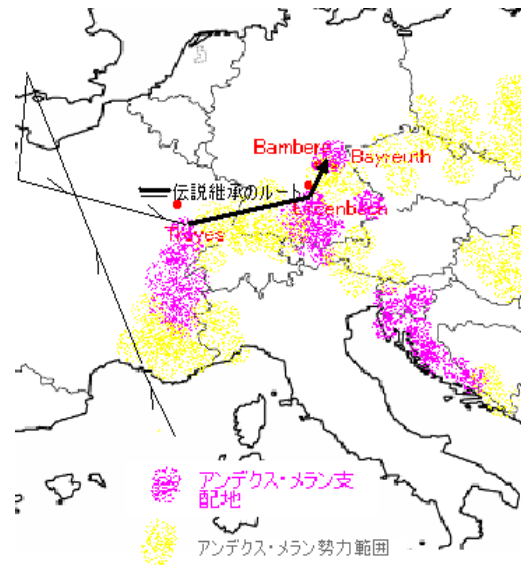


図1 ヨーロッパにおけるアンデクス・メラン家支配地(12世紀後半~13世紀前半)と聖杯伝説及び聖杯騎士伝説の継承ルート(筆者作成)



図2 バンベルク司教座とエルサレム王国との交易路(13世紀前半, 筆者作成)

IV 参考文献・映像資料(一部)

- Troyes, Chrétien de., *Le Conte du Graal Perceval*, University of Ottawa, Retrieved 2009
 - Wolfram von Eschenbach., *Parzival*, De Gruyter, 2003
 - Richard Wagner., *Parsifal*, Wolfgang Wagner, Brian Large, Universal/Music/DVD, 2007
 - Frappier, J., *Chrétien de Troyes et Le Mythe du Graal*, C. D. U. & SEDES, 1979
 - Sunesson, C., *Richard Wagner und Die Indische Geisteswelt*, Leiden, 1989
 - Csampa, A., Holland, D., *Parsifal. Texte, Materialien, Kommentare*. Rowohlt, 1992
 - Hennig, L., *Die Andechs-Meranier in Franken. Europäisches Fürstentum im Hochmittelalter*, Zabern, 1998
 - Müssel, K., *Bayreuth in acht Jahrhunderten: Geschichte der Stadt*, Bindlach, 1993
 - Trübsbach, R., *Geschichte der Stadt Bayreuth*, Bayreuth, 1993
- (助言/史料提供: Historischer Verein für Oberfranken e. V. Deutschland)